



認知症ケア向上のための支援者の支援

スウェーデンにおける取り組み

リンショーピン市では、認知症ケアを支援する研修センターを作っています。介護職員が対応できないような認知症の行動・心理症状に対して、症状を測定し、対応方法を提案します。また、豊かな文化のなかで高齢者がケアを受けられるように、カルチャーセンターを整備し、市内の介護施設に音楽家の派遣や回想法の道具の貸し出しを行っています。

スウェーデンの経験を聞きながら、目黒区における認知症ケアネットワークについて考えましょう。

日時：2018年3月3日（土）10：00-12：00

場所：中目黒GTプラザホール

講師：エルスマリー・アンバックン Els-Marie Anbäcken

（マラーダレン大学准教授）

カースティン・アンビック Kerstin Angvik

（リンショーピン市 認知症ケア開発者）

加瀬 裕子（早稲田大学 人間科学学術院教授）

言語：日本語（スウェーデン語には通訳があります）



申し込み： educoach618@kurenai.waseda.jp

ファックス 03-3719-4565

締め切りは、2月28日です。その後は、当日会場においでください。



Els-Marie Anbäcken 准教授は、2014年以降、Mälardalen 大学で高齢者のケアに焦点を当てて研究を行なっている。2006年から5年間に渡って、コーディネーターとして、日本とスウェーデンの老化とケアに関する研究を行なっていた。2008年に関西学院大学人間福祉学部の専任教授として日本に移り、4年間に渡り老年学、生活終末期ケア、国際社会福祉の教育と研究を行なってきた。



Kerstin Angvik 氏は Linköping 自治体の認知症ケア開発者であり、高齢者のケア、特に認知症ケアの豊富な経験を持っている。Linköping の認知症ケアを向上するために、ラーニングセンターで10年間に渡って働いてきた。Kerstin は、重度のBPSD（認知症による行動心理症状）を有する人々を対象としたモバイル認知症チームでも働いている。